

第 42 回 諜報委員会 2022 年 4 月 16 日

対日本海軍 米海軍通信諜報班の活躍 原勝洋

第一章 「きっかけ」 1945 年 4 月 7 日戦艦「大和」の戦いの米海軍 document AIRCRAFT ACTION REPORT 1.GENERAL a)Unit Reporting b)based on or at c) Report No d) take off Date f) time(LZT) (Zone) Lat Long e)Mission f)time of Return II OWN AIRCRAFT OFFICIALLY COVERED BY THIS REORT でした。

今から 52 年前の事でした。文藝春秋「日米 全調査 戦艦大和」の結果が出た。ワシントン DC 南東区にある米海軍工廠内にある 米海軍歴史部門作戦記録公文書課の記録が送られてからきて始まった。現在の Naval History and Heritage Command である。記録写真は ペンシルヴァニア通りに面した米国立公文書館から入手した。当時 2 ドルくらいで鮮明な PHOTOS が入手できた。当時のレートは 360 円だった。現在は第二次大戦以降の記録はメリーランド州カレッジパークの ARCHIVE II に所蔵されている。

第二章 太平洋艦隊司令部の交信記録 マイクロフィルムの INCOMING OUTGOING U.S. Naval communication service commander in chief U.S.PACIFIC FLEET の電文を手に入れた。 コマは 1400 個くらいあった。

当時 米国立公文書館では秘密解除されてない記録だった。

暗号符字 COPEK の共通記号 「COMB」 の理解が日本海軍の解読電文の発見に役立った。

「K 作戦」「ミッドウェー偵察」「珊瑚海海戦」「ミッドウェー海戦」には共通の 海軍暗号書「D」同乱数表第 8 号 が使用されていた。使用期間は 1941 年 12 月 4 日から 1942 年 5 月 27 日

例)INCOMING 電 SECRET 040630 OP PRIORITY の中に…READABLE TO DETERMINE CONTENT AS DISTRIBUTION FORCES IN AFIRN HYPO AFIRN FOX HYPO AND AFIRN FOX AREAS FOR FIFTH REPEAT FIFTH …DATE MAR 4 1942 CRYPTO-GROUP 87SD CBO WBM ORIGINATOR COM16 040630 ACTION CINCPAC COM14 OPNAV COMINCH AH (ハワイ) AFH (注：フレンチフリゲート) そして AF (ミッドウェー) が日本海軍地点略語と理解することができた時、米軍の電文形式が読むことができた。その後の機密解除された電文を読む参考となった。この原文は第二四航空戦隊戦時日誌

「天気予察 3月4日及び5日ハワイ方面両日共北東ないし東北 15m、半晴ないし東北 15m…フレンチフリゲート方面 両日東 10m 晴れないし雲 雲量 7 以上ミッドウェー方面 4 日は…」の解読であった。

第二章 記録グループRG457は Records of the National Security Agency /Central Security Service このファイルに日本海軍暗号電文の解読記録が 76 項目あった。

INSTRUCTION FOR THE RECOVERY OF MESSGES IN THE AN-1 CODE

CIPHERS No 1 to 3.(注：日本海軍「D」乱数表第六号=No 1、同第七=No2、同第八号=No3)の発見。USE Japanese naval administration. Messages are primarily reports, orders, supply accounts, manifest schedules, medical reports, etc. GENERAL TYPE Numeral code (each cods group is 5 digits) CHARACTERISTICS OF CODE A All groups are divisible by 3, giving a normal with 33334 possible values plus approximately 10000 additional values obtained by use of an Auxiliary or Alternate Table of meanings.

ITEM # 9032 1384A「Japanese Codebooks-3Parts」{海軍省軍機 海軍暗号書 D 巻}

第三章 米国立暗号博物館訪問 歴史職員との面談 新たな機密解除史料の公開情報取得 新しい機密解除情報の入手

- 1) 陸軍暗号 Nat Japan Org Army BOX #157 Item# 673 Date 1940000 Title CRYPTANALYTIC WORKING AIDS FOR JAPANESE ARMY CODES AND TRAINING MATERIAL
- 2) 海軍軍縮会議 SECRET DEC 5 1921 M.I.D. G-2 No718 Reference No ; J-6242 from Washington, December 1,1921 To Tokio, Conference No,127, Type: JO Diplomatic Code, Received December 3, 1921 Translated December 4, 1921.
- 3) GI-P/marTOP SECRET ULTRA ARMY CODE IDENTIFICATIONS a) Maritime Transportation Code
- 4) JAPANESE TRANSLATION OF Z Signal Book D-1 米海軍交信略語 1941 20 部内 18 号

第四章 2000 年に秘密解除され諜報記録は RG38 Records of the Office of the chief Naval Operations にファイルされていた。

また RG80 General Records of the Department of the Navy には Pearl Harbor 関係の資料が数多く含まれていた。

真珠湾惨事に関する各報告書が含まれていた。

第五章 無線諜報文書の発見 RIP 73A JN25A original 15 October 1942

RIP 84-C Top Secret – ULTRA JN25 CHANNEL I A-5B-5 B-6 B-7 Fleet General Purpose System IN EFFECT 1 October 1940 to 3 December 1941. RECOGNITION: 5-numeral groups.

REMARKS: JN25A-5 effective 1 Oct. 1940 to 30 Nov. 1940 JN25B-5 1 Dec. 1940 to 31 Jan. 1941 JN 25B-6 1 Feb. 1941 to 31 July 1941. JN25B-7 1 Aug. 1941 to 3 Dec. 1941

第六章 日本海軍の「D」暗号が真珠湾攻撃前に既に解読を明記した文書発見。Report for; Commander G.E.Boone, USN 「CAPTURED JAPANESE DOCUMENTS THEIR CONTRIBUTION TO OP-20-GYP」 10 March 1947 OP-20-NA 25 A The cryptanalysis of JN25 was most difficult but, with the exception of a few brief periods, successful. Several American naval cryptanalysts had been working with the system since the summer of 1939 and had already broken it prior to Pearl Harbor. The final break into the code came in the autumn of 1940,

第七章 1939 年 6 月 1 日新しい暗号型式が傍受された。JN-25 Cryptographic System JN-25 CIPHERS A-1 D 一般乱数 1

TOP SECRET –ULTRA RIP84-C JN25 CHANNEL I A-1, A-2, A-3, A-4 Fleet General Purpose System IN EFFECT 1 June 1939 to 30 September 1940

第八章 聯合艦隊司令長官山本五十六大将 謀殺の情報源 2 通の内一通は「TOP SECRET –ULTRA RIP195 JN20 (Z 甲暗号表 9)」 JN25 E-14 message of 13 April at 13 April at 1755 broke out as follows:

第九章 SPECIAL MEMO'S PREPARED FOR THE WHITE HOUSE

SECRET P 2 WAR WD PRTY WASHINGTON DC NOVEMBER 27 1941 G -2 HAWAIIAN DEPARTMENT FT SHAFTER TH 473 — 27TH 「JAPANESE NEGOTIATIONS MAY ENDUE STOP SUBVERSIVE ACTIVITIES MAY BE EXPECTED STOP INFORM COMMANDING GENERAL AND CHIEF OF STAFF ONLY MILES !\$\$PM 」

第十章 RIP 87 Z 真珠湾攻撃に関して米海軍は日本の海軍暗号からハワイ作戦を知ることにはなかった。 RIP 87Z No.98 And thus ends the material in the possession of U.S. Navy Radio Intelligence on the prelude to Pearl Harbor. On December 7 itself there were no decryption or traffic intelligence messages coming into Washington, and no traffic intelligence messages coming into Washington,

And no reports from Radio Intelligence to the Office of Naval Intelligence were issued from December 4 to December 8. ORIGINAL 1 SEPT 1942

第十一章 ドイツとイタリアの参戦 「我々が願い」電文

ドイツ発 東京宛 1941 年 12 月 8 日 #1457 Purple(Priority) Limited distribution. At 1:00 p.m.(8th) I called on Foreign Minister Ribbentrop and told him our wish was to have Germany and Italy issue formal declarations of war on America at once....

第十二章 ソ連参戦 情報「WAR DEPARTMENT」「SRA」16571

発) Cortina (ITRRK) 宛) 東京 (SUMMER) 参謀総長 17 February 1945 318 Four Parts Complete

Part1 Press forecasts on the current Tree Power conference (New York on 10 February).

Part 2 (1) Russia' entrance into the war against Japan. (Already promised at Tehran, to be carried out in return for the second Front, once Germany is crushed) (2) 略

Japanese D-9697 Page1

「インテリジュンスと」は、暗号解読と通信解析から得た諜報をいう。

(終わり)

海軍軍備条約 19Nov – 7 DEC 1921

PROPORSAL for ONE LARGE CENTRAL UNIT and SEVERAL SMALL EXPLOITATION UNITS 18 May 1944

OP-20-GY(Includes GZ project)

8-A テヘラン会談の算巨頭。左からヨシフ・スターリン（ソビエト連邦社会主義共和国連邦）、中央にローズヴェルト大統領（合衆国）、そしてチャーチル首相（英国）。1943（昭和18）年11月28日から12月1日まで、イランで開催された、終戦処理を含み北フランスに第二次戦線構築、ここでソ連は対日戦参加を焼約束した。

2-B

1941（昭和16）年8月11日午前11時、ローズヴェルトは、米海軍巡洋艦「オーガスタ」艦上にチャーチルを迎えた。最初の主題はポルトガル、そしてチャーチルは極東の状況を議論することを要求めた。既に大統領にコピーを渡していた。合衆国、英国そして和蘭政府は、一緒に日本に対し更なる南太平洋での軍事拡大は必ず三国の反撃にあうことを日本に警告、そして、チャーチルは注意深く読み上げた。「…合衆国は経済と金融の制限を破棄するだろう…」。大統領は「日本との戦争勃発を防ぐあらゆる努力おこなうだろう」と応じた。しかし、経済封鎖は実施された。

7-A 軍機」聯合艦隊命令「第一開戦準備 Y日12月8日」は、聯合艦隊電令作第10号「X日を12月8日とす。12月2日1730」、この電文が「新高山登れ1208」の隠語となって、聯合艦隊司令長官発として「聯合艦隊」に宛に東京通信隊から放送されたのである。。機動部隊だけでなく聯合艦隊全部隊に対してのものであった。

8-A 左から

8-B

1-A 第32代合衆国大統領フランクリン・デラノ・ローズヴェルトが、「国民に日本の真珠湾攻撃を告げ」、議会に宣戦を求め1941（昭和16）年12月8日午後4時10分（米国標準時）対日宣戦書（…これをもって日本との戦争に突入した。）に署名する瞬間。

2 ページ

2-A 日本の真珠湾攻撃が起こる119日前、1941（昭和16）年8月10日大西洋アジェンダ付近の海上で米大統領と英国首相の会談が行われた。右手前ウィンストン・チャーチル、その2左にローズヴェルト、話しかけているのがジョージ・マーシャル、立ち話の二人はアーネスト・キングとケリー・ターナーである。

案した。

両院の合同会議への教書を送った。その一時間後 上院 82 対 0、下院 388 対 1 で「日本帝国政府と米国の政府及び国民の間に戦争状態の存在を宣言する共同決議文を承認、そして午後 4 時 10 分対日宣戦書に署名した。

ページ 3 1940（昭和 15）年米海軍合同委員会は米英会議の準備ための国防政策研究を承認、「…ドイツへの防衛体制を維持しながら英国とオランダの支援と共に、日本に対する本格攻撃を準備することになっていた。同時に憲法や議会の関係を含め、大統領は戦争に関することから離れる状態を継続することに同意。米英会議での陸海軍の基本戦争計画合意の書類に大統領は署名することはなかった。

国務長官代理

4 ページ 日本海軍聯合艦隊司令長官山本五十六大將。司令長官は「開戦劈頭ハワイ方面に集結している米太平洋艦隊を猛撃して西太平洋への機動能力を奪う必要がある」作戦思想を持っていた。「それが航空機による奇襲攻撃」だった。

5 ページ 大海令第一号。10 月 29 日 1941（昭和 16）年 9 月 6 日の御前会議で対米外交は手段を尽くし要求の貫徹に努力するが、10 月上旬になっても交渉妥協の見込みがなければ、開戦を決意する。10 月 20 日軍令部総長の決定を得、29 日富岡定俊第一課長は、大分県南東部佐伯湾の聯合艦隊司令部に大海令第一号及び大海指第一号の原案を内示した。

6-A 軍機・聯合艦隊命令作第一号「聯合艦隊命令第一開戦準備 Y 日 12 月 8 日」は、1944（昭和 19）年 10 月 31 日フィリピン・マニラ湾で空母「レキシントン」攻撃機に「那智」は、艦首がもぎ取られ、第 4 砲塔付近から船体を折り沈没、その艦内から米潜水ダイバーが鹵獲したものである。米国メリーランドの合衆国公文書館 II からのコピーである。命令作第一号（11 月 5 日付）と同第二号（11 月 7 日付）は、1941 年 11 月 8 日午後、聯合艦隊司令部は、ハワイ作戦関係の麾下各部隊の参謀を佐伯湾に電報で招致、そこで手交したのである。

」

真珠湾攻撃に向けて航行中、一時不明となった潜水艦を捜索するために機動部隊が電波を出したとする疑惑は、これを打破する証拠が日本には長らく存在しなかった。しかし、当時の第1水雷戦隊戦時日誌が米メリーランド大学に所蔵されていることがわかり、これ入手した結果、当該通信は電波ではなく（探照灯や旗による）信号によって行われたことが確認され、米軍が傍受することは不可能だったことがはっきりしたのである。

（防衛研究所戦史研究センター史料室 主任研究官 柴田武彦）

原勝洋『インテリジェンスから見た太平洋戦争』潮書房光人新社、2021年